

## 実録！ 浜松雄踏息神社無煙大祭

# にぎやか・さわやか・きよらか

加藤一晴 日本禁煙学会・監事

### 自治会の先駆的取り組み

今年も五穀豊穣ほうじゆうを祈念する息神おき社祭典が終わりました。天候にも恵まれ、例年以上の参拝者がありました。これまで社務所のない息神社祭典は、自治会に運営を任されてきました。地区八つの小字の地域住民が、綿密に連携し合いながら地区最大のイベントの準備を行ないます。しかし、喫煙対策を施す数年前までは、境内は大きな灰皿と言えべきものでした。祭典の翌朝には、吸殻やゴミを腰を屈めながら拾うことが続いていたのです。

あくまでも主役は参加者で、創建705年の息神社に五穀豊穣を感謝することなど軽んじられたのです。誰も「祭りぐらいいは……」の無礼講スタンスに疑問を持たなかったのです。

### 5年前に始めた喫煙対策

医師会代表として自治会に要請し、喫煙対策を開始したのは5年前。3箇所の喫煙スペース（平成17年）、周辺路上の禁煙（平成18年）、鳥居（拝殿まで禁煙（平成19年）、境内全面禁煙（平成20年）、と確実に喫煙対策は進んできました。

未成年健全育成を掲げている自治会ならではの取り組みです。呼応する形で祭典全体会議において、筆者が「受動喫煙の有害性」を啓発してきました。

昨年からは、「境内全面禁煙」の回覧板が各家庭を廻り、自ずと煙害知識は普及しました。そして本年度（平成21年）は、協力要請しましたが、ヒントは東京・巣鴨にあったのです。

### 高岩寺への視察

地域一帯を禁煙措置にしている東京・巣鴨のとげぬきの地藏尊・高岩



人で賑わう息神社の境内。中央奥に見えるのが2メートルを超す大太鼓。

寺まで視察に出かけました。

8月23日のことです。循環器内科医である来馬住職からは、「露天商も喫煙対策に加わると意識は高揚します。彼らも、いつまでもくわえタバコで商売しているのは、タバコの臭気で客も離れていくでしょう」の激励の言葉がありました。言い換えれば「禁煙は健康と商売のいずれにも有効」のメッセージだったのです。

#### 街商協同組合に要請

彼岸の9月23日。浜松市鴨江観音には40以上の露天が軒を連ねました。境内で組合理事長に直接要請しました。5年前から息神社喫煙対策を着手している医師会代表として、この場にきたことを伝えました。

内容は、①販売中は喫煙しない。②喫煙スペースを利用する。理事長は、当方の要請を直ぐに了承され、今年度の息神社周辺に出店する露天販売中の禁煙措置が決定しました。

そのことを静岡新聞に投稿しました（ひろば…受動喫煙被害を祭りか

ら排除)。また、昨年に続き、各家庭に「境内全面禁煙のお知らせ」の回覧板も廻りました。

### 祭礼当日

午前10時30分に息神社拝殿で例祭の儀が行なわれました。筆者は、医師会代表として玉串奉奠ほうてんしました。さらに、参加者にこれまでの境内喫煙対策を説明し、祭典中AED（除細動装置）を準備することも伝えました。

また、準備中の露天商全てに、本誌（世論時報10月号）を寄贈し、さらなる協力要請を行いました。

今年度も群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・愛知・滋賀・神戸から大勢の視察者がありました。皆、境内に掲げられた「定」を見て、禁煙措置が健康増進法第二十五条であることを納得しました。

視察参加者を迎えて息神社傍の禁煙中華レストランで、イブニングセミナーを開催しました。

### イブニングセミナー

時系列で息神社境内禁煙化をプレゼンテーション（限られた時間の中で、情報や主張を分かりやすく説明）しました。祭典禁煙化に至るまでには、自治会の協力なしでは不可能です。祭典独特の何でもあるの退廃的ムードを、如何いかに変えることが大切かを伝えました。

ここでスライドとして掲げたのは、大正12年（関東大震災の頃）祭典前光景で、16名中9名がくわエタバコで写っている写真でした。当時の楽しみはそれぐらいでしたが、現在では携帯電話・パソコン・各種スポーツ・海外旅行



大正12年当時、息神社祭典に関わった人々が、くわエタバコで写真に収まっている。

が当たり前のライフスタイルです。しかし、喫煙の有害性がハッキリしても、お祭りになると、何でもあるの退廃的ムードのままでは、将来に向けたメッセージは伝わりません。地区最大のイベントであるお祭りを、地域住民の意欲高場の場とするチャレンジが、息神社禁煙祭典であ

ALPHABET  
PASTEL

ALPHABET PASTEL Co., Ltd.

人の視線を  
引くための服ではなく、  
自分が楽しむ  
服でありたい。

そのことが、  
着る人の個性を生み、  
他の人の共感を  
呼ぶはずである。

Alphabet's alphabet

- Pastel Miami

BOYS ROOM

株式会社 アルファベットパステル  
TOKYO OFFICE  
東京都渋谷区神宮前2-21-14  
TEL:03-3401-1701

HEAD OFFICE  
札幌市中央区南2条西25丁目  
TEL:011-615-7911

<http://www.alphabet-pastel.com>

ると伝えました。

そもそも、祭典の主たる目的は、息神社に祀<sup>まつ</sup>られて<sup>いる</sup>志那都<sup>しなつひ</sup>比古<sup>ひこ</sup>神（風の神）に対して、五穀豊穰を感謝することです。そのため、祭礼開始には拜殿で、例祭（初日）、神輿祭（翌日）の神々しい儀式が執り行なわれます。その一方で、少し離れた神社境内が、「過度の憂さ晴らし」や「行き過ぎた無礼講」であつてよいはずがありません。

そういう破天荒な雰囲気は、こどもたちや地域住民から「恐い」と敬遠されてきたのです。しかし、それは既に過去の話となりつつあります。

### 露天商の協力

境内には、禁煙措置を知らない地域住民に向け、放送施設を設置しました。坂田自治会長が「境内は全面禁煙ですので、ご協力お願いいたします」とアナウンスするためです。

このような見守られる雰囲気に参加者は安心感を得たことでしょう。臨席した警察官も、「この境内の空気は綺麗で安全ですね！」とコメントをしました。嬉しいことに、関係者によれば今年は今度も連れの参拝者が増えているそうです。

これは、「視線の高さにタバコの

火がない」、「露天商がくわえタバコで商売していない」、「受動喫煙被害がない」など、境内が本来の聖域になった証拠と言えるでしょう。

多大なる協力をしてくれた露天商です。誰一人として、くわえタバコで商売しておらず、喫煙者全員が喫煙所まで出かけていました。中には配布したニコネルを貼<sup>は</sup>ったり、禁煙うちわを店に掲げた方もいました。

境内の祭典参加者の高揚感が、あたくも伝わったかのようでした。

露天商の方々の協力が得られたのは、大きな進歩でした。筆者は辺りを見廻りましたが、喫煙光景は皆無でした。汚れていない空気の元、彼

らは頑張つて働いたことでしょう。考えてみれば、こども相手の商売です。タバコ煙の無いことは、こども



境内前の路上に軒を並べた露天商（左）と、夜になって大太鼓の前に集まる人々（右）

もたちが露天に集まりやすいのです。境内と露天の関係は切っても切れませんので、こども連れが増えたということとは、参拝者の増加に繋がります。さらに、タバコの吸殻が無いことは、ゴミの減少に繋がりに、良いことづくめです。

### 祭典全日程を終えて

宵祭り、本祭りとも境内は人、人、人でこった返しました。もの凄く熱気に包まれ、直径2メートルを越す八つの大太鼓や、六つの屋台の太鼓の音が、秋の夜空に響き、氣勢は澄んだ空気を突き抜けます。

初めて見る人は、スケールの大きさに驚くでしょう。しかし、その場にあっても、一切のタバコ煙はないのです。当然ながら、大勢のこどもたちも楽しんでいました。

「喫煙を控える」ことは他人に対する思いやりです。それは形を変え、「自分の身体を慮ること」に繋がります。明文化されていない暗黙のルールがそこにあったのです。

ゆるぎない自治会連合のスタンスのおかげで、安全・安心・安寧な参拝環境になりました。今回の成功により、まぎれもなく地域住民に対し「息神社境内は無煙環境である」のメッセージが伝わりました。既に、息神社無煙祭典は小さな社会現象にまで進化したのかも知れません。

奥田副自治会長が「大成功だな！」と呟きました。にぎやかだけれど、うるさくない。さわやかではあるが、安っぽくない。きよらかではあるが、毅然としたメッセージ性をもつ息神社禁煙祭典は、こうして幕を閉じました。

最後に、露天一軒一軒に労いの言葉掛けをしたところ、爽やかな表情で「来年もよろしく！」と言われました。

無煙祭典の様子がそれぞれ掲載されました。中日新聞「発言・成果上がった祭りでの禁煙」10月18日。静岡新聞「ひろば…禁煙に協力の露天商に感謝」10月21日。